

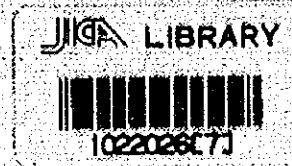
第二回海協連アマゾン支部

指導員連絡協議会議事録

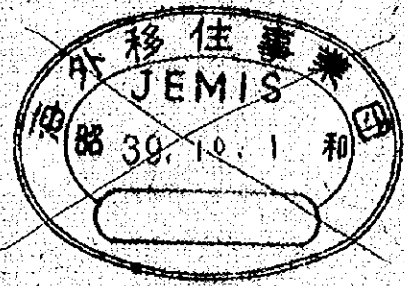
一九五九年五月

日本海外協会連合会  
アマゾン支部

一九五九年五月



27099



国際協力事業団	
入会 84.7.20	703
登録No. 27099	23.4
	EA

北回海協連アマゾン支部  
指導員連絡協議会議事録

日本海外協会連合会  
アマゾン支部



一、日時 一九五九年三月十六、十七日

二、場所 在ベレーン総領事館会議室

三、出席者

(一) 海協連支部

越知、向井田、高木、那賀(ベレーン)

谷(ロンドンア)、高村(マナオス)、上森(モリヤ)

小谷、比村(クワマ)、山本(マカパー)

上野(種苗農場) 各取員

(二) 監督官庁

総領事館

福岡総領事 町田理事官

相沢理事官

(三) オフザーバー

辻海協連支部顧問、大田移住振興代表社員、

羽根田移住振興ベレーン支店長、

平賀練吉農学士、

神田鍊蔵医学博士、

海協連本部内田重雄、

(四) 司会者

越知 栄

廿一日(十六日) オズガバーを交へず

午前八時三十分閉会

司会者(越知)の閉会の挨拶に引続き、福岡総領事より大要次の趣旨の挨拶があった。

廿二回 海協連アマゾン支部指導員連絡会議が行われる事は洵に喜ばしい。最近管内の各植民地とも非常に落ちついて、営農成績も一段とあがっている事は、指導員各位の努力の賜として感謝に堪えない。入植者を育成強化発展させる事は入植者は勿論、後続移住者を導入するためにも非常に大切なことである。新しい移住者を導入することは、海協連支部に与えられた大なる任務である。州や直轄地政府の至善植民地に移住者を導入することは交渉し易いが、I N I C 直轄の植民地は、I N I C と閉発庁が中にあるので非常に困難性が多い。最近、リオ・フランコ直轄地、アマナス州、マラニョン州の各州を祝賀し、州知事と膝を交えて懇談したが、各州とも新しい植民地の設定と、日本人の導入には非常に熱心であるので、この機を逸せぬ亦に具体的に話を進めている。又BR-14号国道を中心とした植民地設定も研究中である。この廿二回の連絡協議会が、廿一回より更に大なる効果をあげる株、充分研究討議されん事を切望する。続いて、昨年九月帰国、本年三月帰任した越知主席指導員より、日本に於けるアマゾン熱に引き次り如き発表があった。

一、日本に於けるアマゾンに対する研究熱は、当地で考えている以上に熱心なるものである。

二、いろいろの会合や研究会に出席したが、その都度次の点を特に強調し、賛成を得た。

(1) アマゾンに日本の資金による植民地を建設せねばならぬこと。

(2) 移住者を伴う企業の進出

(3) イリマ地方(アマゾン河口地区)の研究と、その開発

三、外務省に於ては、専門家による強力な調査団を本年五月頃アマゾンに派遣する予定であり、その調査費も約一千萬との事である。

四、戦前比島ダハオで、マニラ麻の大会社を至営された古川拓殖会社社長古川義三氏も、是非アマゾンにマニラ麻を栽培したい希望で、すでに日本を出発しており、近日中に当地着の予定である。奥は、外務省をはじめ関係先が本腰で研究を初め、一畝の空気もアマゾンに興味を感じている。この機を逸せず、我々も研究してアマゾンの

建設に盡さねばならない。

次に各植民地概況報告に入る。(九時二十分) 報告された各植民地の概況は別表の通りであるが、同説明中強調された点は次の通りである。

一 タイアノ植民地 (小谷職員)

小谷

(一) 現在タイアノが一番困っているのは道路問題である。この点は強ちに州政府に対し交渉せねばならない。

(二) 生産物の販路は、目下のところあまり心配していないが、近い将来入植者は、生産物が過剰になるのではないかと心配している。現在マナオスィボア、ウイスタ道路が建設途中であり、ギアナ領との道路も近い将来に開かれるので、いくら生産されたも販路に心配はない。但し、ピメント、カネー等の氷年物を大いに作り、飛行機でギアナ、ウエネズエラに運んで採算のとれるものを作るは将来は洋々たるものがある点を強調しく指導した。十年後には大発展するであろう。

(三) 入植者はすでに五年になるが、僻地のため役々カボク口化の傾向を示しているから、指導員を駐在せめて指導を強力に行わしめねばならない。そのためにも新に移住者と導入しく、入植者数を殖すことを考えねばならない。

(四) 最近三年のうち、二年を大乾燥に見まわしたが、入植者が動搖しない点は心強い。福函 タイアノのカボク口化防止の意味ではないが、血々新しい入植者一〇家族を入植せしめる予定で、州当局とも了解済である。道路は、タイアノ植民地建設当時の殖産局長ドルバルデ・マガリヨシエス氏が、知事の希望でアクレ直轄領から転勤させられ、タイアノ植民地に力を盡すことになつていたので解決されるであろう。

小谷 タイアノの将来性は大きいにある。ギアナまで一五〇軒道路も作られる予定である。ギアナより農産物の買入希望も未であるが、リオフランコ州それ自体がまだ農産物が少ないので、販路を禁止しているのだから、農産物は作れば作るだけ売れる。心配は全然ない。今後は牧場とピメントが有望と信じている。又、マナカ島に邦人を四〇家族受け入れたいという希望を直轄地当局者からも聴いている。

二 トレゼデ・セツデンア口植民地 (谷職員)

(二) 谷 この植民地は比較的に問題の少ない植民地である。現在米年作としてゴムに主力を介して

いるが、その成長は非常に良い。しかしこのゴムの採液の始まるまでの生活費と、ゴムの維持費を捻出するために野菜等の短期換金作物を栽培せねばならない。そして、ゴムの管理がどうしてもおろそかになるので、維持費として各点に於いて融資の必要がある。ゴムの採液が始まれば、借入金の返済は容易である。又、現在ゴムの苗も芽接ぎしたものを配給されているので、少くとも種子より発芽させて育成するより、三年の期間が短縮されている。ゴム育成熱はますます助長すべきだと考えるので是非金融の道を併りてやうか貰いたい。

上森 アマソニア銀行のゴム融資はないか。

谷 現在採液しているものに対しては、相手入中に金を貸しているが、育成中のものにはあまり貸さない方針の故に交渉してもなかなか借りられない。

福岡 ゴム融資を受けた金額とその返却に於いて成業があるか。

谷 ある。一年目五町歩、二年目一〇町歩、三年目一〇町歩、計二十五町歩を植付けた管理すれば、採液の始まる一〇年目より十二年目には現在の時価から考え、採液量を内輸入にみても、二、七〇〇コントスの収入を得られる。二十五町歩を植付け、ゴム液採取が始まるまでの十年間の所要経費は、管理費、苗代等で約一、五〇〇コントスである。よって一、五〇〇コントスを借りても元利の返済は容易である。尚、二十五町歩の植付量はベルテラゴム園に於いて一町歩五八本として計算したから一三、二〇〇本がその植付本数である。尚、詳細計算は別に報告書を提出する。

越知 計算は内輸入に於いたとの事であるが、基準はどこに置いたか。

谷 現在のポルト・ヴェリーヨ血筋の自然木からの採液量と、ベルテラゴム園の成績を参考として、それを二〇%位内輸入として計算したもので、数字的には絶対無理ではない計算であると確信している。

ニヘラ・ヴィスク植民地（高村 取負）

高村 現在マナオス市の野菜消費量は急増しており、邦人の中には昨年一年間に三〇〇コントスの純益をあげたものがある。永年作はゴム、クワウナ、コーヒー等を皆成績は上々であつて、特にゴムの成長は良く、ブラジル人が我が事の稼いで自慢し、外部に宣伝している。去年位から試験切込が行なう様な樹も出て来た。野菜は勿論、コーヒー、クワウナの収穫があ

がて来たので、各入植者とも激次機械化の方向に向かっており、小型船（モートルボート）の購入、機械によるリンニヤの製造が行われ初め、その余力を永年作に向けられているので、本年の収支実績では赤字の如く見えるが、機械化に資金を投入したため、決て赤字ではなく、心配は余らない。アマゾン全植民地中も最も経済的に安定した、定着性のある植民地と自慢が出来る。しかし一番困るのが道路で、入植以来五年余全然修理補修されず、州や植民地当局にいくら交渉陳情とも全く梨の礫である。これで道路を完成すれば、鬼に金棒である。

#### アマゾン系知外植民地

高村 昨年五月入植したため、日晴がそろわないので営農成績について報告すべき段階ではない。入植時期が遅かったので困難に遭遇したが、全員元気である。今後は入植時期が失ない、概に日本側に強かに連絡せねばならない。又、全員張り切っているが、種苗が非常に足りない。海協連としても入植者が入植する以前に、小規模な種苗園を入植地に設けて種苗育成を先に行っておかねば、入植者のスタンスが非常に遅れるから、この点研究を願いたい。向井田 種苗園の現地に設けることは、小規模でも資金、人的な面の両面からの制約を受けるので、入植予定地付近の篤農家に当方から費用を払って種苗を育成して貰う株にしたいと考える。しかし入植が決まらう、種苗の育成を初めるとは遅い場合もあるから、モンテの種苗園をもつと有効に利用出来る才策を考へねばならない。その場合向井田の場合は種苗の輸送方法であるので、これを研究しなければならぬ。

#### モンテアレグレ植民地（上森 職員）

上森 当植民地は、本年三十年来の大乾魃に見まわられて大いに生産物に影響し、ピメンタ、コーヒー等は全滅に近い大打撃をうけたため、二、三の人は動揺している模様だが、平賀氏の忠告で又、考へ直した株である。モンテアレグレは土地が良すぎるために短期作に走る傾向が強く、米、ミリオ、ライシジョン盛んである。他の植民地に比して永年作が少ないので、今後カカオ、ココ、デムテ等の植付を主力に永年作の指導を押し進めて行きたい。ドイス、ガリヨス地区の永年性作物の研究熱は盛んであるので、この地区は心配はいらない、困っているのは、当植民地も他と同様道路である。しかし、バラタ將軍（ハライ州々統領）と話した結果、機械が来ているから乾燥期には修理にかゝるであらう。

組合活動も激次活発となり、パリンチニス、マオス、サンタレン、ベレーンと販路も拡大されてある。それにつけても移住振興会社は、短期借付債に対しても融資して果敢な採りて貰いたい。倉庫の中の生産物を担保として貸して果敢ると、モンテは一段と伸びる可能性がある。

福岡 モンテは他の植民地に比して永年性作物の研究が足らぬのではないか。もし永年作物を心掛けねばと考えるが。

上森 ドイスガリヨスは永年性作物に一生懸命であるが、今年の乾燥で傷められたので、一寸志気を挫かれた格好である。しかし今後またに永年作物を植付ける採努力して行くつもりである。

福岡 モンテだけでなく、どの植民地も同様だが、入植四年五年後になつて永年作物に気が付いた時すでに数年の立派である。入植当初より永年作物を植付ける採に指導すれば土地に愛着を感じ、落伍者もある程度防止できると信じている。

一 クワマ植民地（小谷、辻村、坂員）

小谷 クワマ植民地は海協連の強い要求にもかかわらず、植民地所長の方針でオ一、オニ次には、入植当初に永年性作物を植えて付けさせなかつたので、これが現在問題となつてゐる。オニ次、オニ四はゴム、カカオを主として最初から指導植付させたので成績が上つてゐる。米の成績は概して良いが、現在イモチ病が発生してゐる。植民地側はイモチ病は当地にはないと稱して消毒を行ない、この採に当支部指導員と植民地当局とにいろいろと意見の衝突が生ずるが、連邦植民地は非常にやり難い。又教育問題が一つの向題で、船舶の關係である一部の児童は植民地の船がないため、一年かうち一ヶ月しか通学出来なかつた事があつた。しかし、これは今年分校を四ヶ所に建築する予定なので解決出来ると考ふる。衛生上一番の問題点は食生活で動物性蛋白質が全然不足で、従つて野菜だけの食事に成り、体力が弱り病気になることである。が、これも最近経済的に向上したためで幾分良くなって来た。交通、運輸は悪ましている方で問題はない。殊に海協連から貸与の船が生産物の輸送専用に使われてゐて、これがど小だけ入植者のためになつてゐるが想像以上である。組合活動は激次よくなりつゝあるがベレーンが近いので自分で販路するものがあり、なかくまとまらなかつた



が、近いうちにペルナンブーコ、カラベル両区の組合が合併され、一元化される予定である。クワマ植民地の一番困る点は可耕地面積の問題である。平均一戸あたり六町歩位の可耕地面積しかなく、後背部は沼地があつて、徹底した排水溝を掘らぬ限り可耕地面積はいくらも増やせぬであらう。 ひとい所は耕地面積が三町歩もない所もあつて将来性を考へると入植者としても落ち着いて生活できぬ情態である。この様な状態で入植者を引止めることは不可能である。その対策としては一戸当り三町歩程度の水田を作り、残余の土地を水年性作物用として力を注ぐより外途がない。しかしこれも、この熱帯地で水田作をいつまでも続けられるかどうかの問題である。水年作が成長すれば止めてしまふだろう。

高村 南伯の鐘ヶ江農場では、河岸に堤防を作り、水門で水を自動的に調節している。水田は機械化大農式で水田の水を引かしたあとには畑作で二毛作をしている。

福岡 クワマは特殊地帯で、延長四五KMに渉る堤防は不可能だろう。

止村 必ずしも悪いところばかりではないが、カ五次は耕地面積が少ないので大部分が良耕した。気の毒である。良い土地の当つた者は少数で、この水は水年作を植之付け、永住の決意をしてゐる。

小谷 カラベル地区の野菜は、出盛期僅かに三月月約一、五〇〇コント入の収入をあげた。これを蓄積して他日の飛躍に備へてゐるが、問題は雑草の処理だ。豆科の植物は育たないからフェンリア等の緑肥作物は成長しない。結局は機械化より他途がない。現状では未だ二〇〜三〇%の脱耕者が出るだろうと考へられる。今後大いに地勢を研究し、植民地当局とも協議して対策を練るつもりである。

「マタビ」植民地（山本歌員）

山本 ゴムを主作物とし、マンジョカを換金作物としてゐる。既にその大部分が三〇町歩の土地を利用し盡したので困つてゐる。それは他に土地を貰へば、現在の耕地の管理が出来ないから他の土地には移り得ず、現在ICOMIを対象とて養鶏を行う林に指導してゐる。

既に実績が上りである。ICOMIの現在の鶏の消費は一月成績三〇〇羽、卵は約一〇、〇〇〇ヶであるので、各入植者一戸当り三、〇〇〇羽ずつ飼育すれば充分豊かな生活が出来得る。その他、アリア、果樹も行つてゐるので、以前と異り落ち着いた植民地となつた組合は船頭ばかりで、各個人の協調性がないのでなかくもつかしい。しかしICOMIと

各個人契約の不利が解りはしめたので、激次かたまたらうと信じている。当植民地として特  
に挙げるべき隘路は現在ではない。

「マサゴン植民地（山本職員）」

山本 この植民地は野菜専門であるが、マカパー市の野菜消費はICOMIの発展と共にま  
だ（）伸びるの心配はないが、将来のために野菜単作から永年作への移行を考へつゝ、  
める。おそらく収入面から言へばアマゾン一の収入をあげていよう。入植者が僅  
かなので時に向題は無い。

「マサゴン植民地（山本職員）」

山本 一番困つてゐる点は入植者が少ないので学校が閉けぬ点にある。州政府に交渉して  
いるがなかなか解決しない。児童二五名いると教員が派遣されるのだが、その数は産  
しない。全員張り切つてゐるが、交通面にも難点がある。植民地内にインガランペが多く  
て生産物の運搬に困つてゐる。直轄地政府に対し橋木の補助を交渉しているが、直  
うちに支給されるものと思われ。又海協連支部の援助によつて、その修理に当つてゐるの  
で、そのうちにこの向題も解決されると思われ。

十六日（午後二時半）オズグーバー出席

司会者越知

越知 先づ今後の各植民地の移住者の導入の見送りと、土地について討議願いたい。カパー  
連邦植民地の場合は

上森 モンテアレグレは入植以来今年九月で六年になる。現在六六家族が組合を結成して、  
皆農に励んでいるが、まだ（）組合員の数が不足で全済的に行きづまりを感じる。日本  
から新しい文化、又は農業知識を導入する意味からも、毎年二、三〇家族を定期的に導入  
したい。しかし、これはINICの予算とも関係するし、一面脱耕者のあつた関係からINICは  
なかなか簡単に承知しないことである。現在営農している人々の其派な活動振りは  
全然見て呉れないで、脱耕者の点ばかりに目を向けている事は遺憾である。現在の植民  
地所長と交渉した位ではどうにもならない。政治的に解決して貰いたい。入植場所は肥

次の地がいくつでもあるのだから。

向井田 入植に要する聖費を日本側で負担し、植民地当局に経済的負担をかけぬといつ

条件はどうか。

上森 交渉したことはないが、それならば不可能ではないだろう。

小谷 その点は現地ではどうにもならないであろうから、政治的な解決をするより外ない。

福岡 アマゾン崩落と資金面だけは当地で解決できるが、INRCの経営権の問題もあるのでなかなか難かしいだろう。

向井田 経営権は、名目だけはINRCでよいではないか。名を捨て、実を採る方が大切だと考  
える。

高村 連邦植民地に入れる場合、従来のような援助の点を削除して土地を与えるだけの条件  
で、入団許可を申請すれば可能と考える。

谷 これに対して日本政府は経済的援助をどこまで与えるか。

福岡 それは判らない。今後研究せねばならない問題である。

高村 INRCから土地を与えるという入団条件で許可をとり、伯国政府から金銭的援助  
を受けなくても良いという意見書を付ければ、連邦植民地に入植は可能だ。又、時期を  
失ななければある程度の自己携行営業資金で其派にやってみる。要は道路、家屋、山  
伐、山焼費等の補助又は貸付けの問題だ。現在の入植者の営業成績をよく説明す  
れば、ベッヴィスタ植民地の場合はINRCの許可は問題ないと思える。

小谷 実際本年のクワマ植民地当局の予算は七、〇〇〇コントスで、その内四、〇〇〇コントスが  
人件費である。残り三、〇〇〇コントスでは何にも出来ない。

上森 モンテアレグレの場合、現所長はドイスガリヨスを視察し、その成績がよいので、今  
後の導入は大いに可能である旨の意見書をリオに提出したとのことである。

福岡 モンテは代々の所長が赤字を出して、経営乱脈であり、モンテ所長の意見書はINRC  
に対しあまり効果はないだろうと考えられる。

上森 マゴクとして今年も又駄目になつてしまうと、二三年思ひがなくなる。

福岡 移住協定を結ぶべく準備中であるので、これが出来たら、この線で大いに交渉を進め  
ることが出来ると思つている。

(ハ)

辻村 先般コルデー口所長に今後入植者を導入する意志ありや、と質問したところ、毎年五〇ロットを作り、日本人三〇家族、白人三〇家族の割合で引続いて導入予定であるとの事であった。

横間 カワマの場合は、新入植者の受け入れよりも、カマバル地区と、ペルナンブーコ地区との間の私有地買収問題の解決が先決で、この私有地六、〇〇〇町歩の地権が物凄く入り込んで困っている筈だ。

小谷 あの私有地は土地が悪い。精々二〇家族しか入れないだろう。植民地は三三、〇〇〇町歩と稱しているが、実際の耕作可能地は僅少のもので約二五、〇〇〇町歩は使用不可能の土地である。

向井田 他に適当な入植予定地は無いだろうか。

山本 あらうとちうに入植者が散在するのは、指尊上にも又生産物の販売にもいづれと不便である。現在アマパ州政府はアラガリー河の上流、一〇〇Mの鉄道沿線の良いところに植民地を作る計画中である。

福岡 それについてアマパ政府は実現の胆があるか。勿論経済的裏付けが必要であるが。

山本 アマパ州の計画ではあるようだ。現実にロット割を初めていると聞いている。

上森 資金とあればアレメンケル付近には理想的な良い植民地が出来ると思う。

司合者 INICと相談した上で、日本側が全済負担すれば新しい移住者の受け入れは可能の見込みがあると結論が出た様だ。それでは今後の営農指導方針をいかにするかを討議していただきたい。まず永年作について、

谷 この問題は、おそらくこの植民地でも融資問題が絡んで来るだろうと考える。ロンドニアの場合ゴムを永年性の主作物としている。このゴムの採液までの維持費は非常に大きい。その費用と生活費の捻出は、ロンドニアの場合野菜作であるが、消費地の人口を考へればならぬが、それは非常に小さいものである。そのためどうしても生活が苦しくなるので、移住根拠会社の長期融資を受けなければならぬ。先に述べたように三十五町歩の維持費は十二年目採液までで約一、五〇〇コントスかかる。十二年目には三、七九コントスの収入がある事は確実であるから、長期に渉る融資ではあるが是非助成して貰いたい。

(加) 小谷 これには被覆作物を研究すれば、費用が相当節約出来得ると考まうが。

谷 なども、五〇〇コントスを二度とか、全部とかいうのではない。いろいろと研究をして費用の節約に努めるから、不足分だけを貸して欲しいのである。

福岡 その場合の担保は、

谷 別に組合財産はない。成育しつゝあるゴム木が担保である。これを担保にして呉れなければならぬ。

高村 芽接した苗の配布は、

谷 今年は二〇〇本だけだった。十月には二〇、〇〇〇本位配布が受けられる予定である。この芽接ぎ苗によれば、その収穫期までの期間が約三年短縮される。

高村 マナオス附近は苗を植えるのを奨励しない。種子の直播である。

山本 マグピもその方法であつたが、現在は苗を植付けている。直播の場合もし芽が出なかつたら大変な手数がかる。

高村 今年採種して、来年度芽接ぎ出来ぬか。

谷 それはほんの少数だけで大概三年位かゝる。

高村 何れにしてもゴムを成育するには資金の融資が必要だが、従来の貸付態度から見ても入植者は移住根拠食社をあとにはいないようだ。

小谷 中間方法として、直播したものに肥料をやると二、三年早く採液が始まるという研究があるか。

辻村 聴くところによると肥料は一本七〇㌔程度の人造肥(化学肥料)でよいとの事で、目下研究している。

福岡 ゴムは各地の最も重大なる作物であるが、その他のものについては、

高村 従来のアマゾン農業法によると、アマゾンは漸次砂漠化するものと私は思っている。それを防ぐためには緑肥作物による表土の流失の防止にある。即ち、水年作物で現在の地表を覆っている原生林に変わること、そのためには消費の大きいもの、即ちゴムを主眼として植えて、その他カネー、クワラナー、果樹を取り上げて指導している。

福岡 そうするとマナオス近頃はゴムが主体となるわけだ。

谷 ロンドニアやマナオスと同様である。

福岡 モンテ・アレグレの水年作物はどうか。

(十)



平賀 ゴムに限らず、主作物が重要なためだから、混植物は慎重に考へねばならない。主作物の邪魔になりはじめた時に切り取ってしまったても惜しくないもので、出来れば主作物のためになるものが良い。

福岡 デンデーは相当量が纏まりないと、交通不便の地では採算が採れぬのではないか。

平賀 デンデーはパーム油をとるが、これは収穫後二週以内には採油せねば駄目である。従って工場は近いところになくはならない。勿論バイア地方では田舎で発酵處理してタンボールに入れて工場に出しているから、この方法を研究すれば良い。しかし、加工場が出来たら物を植えるのは反対だ。生産物が沢山あることによつて加工場を招致することが本筋と考へる。バイア地方より、こちらの方が五〇%も生産が良い。これを唯一の収入源とすることは危険であるので、資金の余裕を見ながら植付けの行き、多数の人々がこれを植えて、初めて一つの産業となるのだと考へる。

上森 デンデーは手入もいらす、どんな土地にも出来る。又、三年したら結実し暇をみて手入をすれば良いのだから、一つの産業とするために、モンデーは、爪を作る積りで考へる。

小谷 デンデーの含油率は

平賀 六五%である。

上森 C.A.N.Pを通じて、永年作を奨励したいのだが、なかなかやめて貰えない、皆の協力を得たい。平賀 デンデー種子をIA.Nに頼んだり、五〇、〇〇〇個買収した。しかしこれは自分達で行つて採種せねばならない。

福岡 他人を頼つては何も出来ない、海協陣内をぐんぐん連絡を取つて自分の力でやりねばならない。

向井田 IA.Nでは必要なものはいくらでも進上するが、必ずその後の報告をIA.Nによつて買収することであつた。貴いばなしでは困る。

司合者 ウルグーはどうか。

小谷 父コマでは、外部の一邦人の奨めで一生懸命にやつてゐるが、私は賛成出来ない、理由としては需要少なく、単価も安く、又、雨期には貯蔵が利かない。

平賀 アメリカでは、白黒の胡椒の他に赤胡椒と稱して、ウルグーを色付けたものを使つてゐるとのことであつたが、私はウルグーはあまり期待出来ないような気がする。

司合者 カカオはどうだ。

小谷 夕ワマでは目下好成績である。成績の良し悪しは土地条件にもよるが、果は手入れの良し悪しが大いに影響する。

上 小谷君は参考までに申し上げておきたい。先般、ベルテラの試験場を見たが、これはコストリカ種の新種であり、結実が早く量も多い。十年まではどんどん増収出来る。それから一三年目までは大体同量、十四年目から減収となり、十六年目に新しいものと植えかえるとのことである。尚懸は土地の良しどうかではない。ゴムの間作すると病気が出る。この話があるが事実無根であるとのことであった。この奨励増産のために今年はベレイン郊外に種苗園を作り、どんどん増産したいとの事であった。ゴムは採採までに七年以上かかるのだから、三年位で採集できるカカオは間作として有利と考える。

平賀 かつてトメアニーがカカオをやつて大失敗をしたのは、あまりにも一度に沢山やつた(六〇〇町歩)ので手入れが出来ずに失敗したので、カカオもゴムと同様酸性土を好む。

高村 植えて良さそうなのは沢山あるが、それも、私も植付けをみることは出来ぬ。

上森 それこそ試験農場の使命だ。

向井田 試験農場に対する予算が毎年少ないので、資金的にも入的にもまだその試験までは無理だ。早く試験農場が独立採算ですべてを行える様に、現在農場の運営を進めている。

この水が出来ればどんな試験でも行えるようになる。

上森 バイア州では現在カカオフランコ種をやっている。これは苦味が少なく上等なチョコレートを作るのに一番よい。これをコストリカ種と二種に初めたいと思つている。

平賀 フラジルはカカオの輸出国であるが、アフリカからカカオフランコ種を輸入している。こ

れは水で発酵するし、香りも在来種よりもはるかに良い。IANNにもベルテラにも試作中である。

上森 やはり良いものを植えねば駄目だ。

司合者 永年作は官農の主眼であるが、食いつなぎの短期作はどうか。

小谷 夕ワマでは野菜は非常によく行っているが熱帯地だからこれを続けるに身体が持たない。果物が出来るようになったら、収入も野菜では知れなかった。どうもあまり野菜に力を入れない。

(主)



福岡 どの植民地でも食料供給を日本人に望んでいるので、これを真向から否定も出来ぬ。その点、相手の感情も考慮すべきだ。

小谷 それは確にそうである。しかし、それだけに制約されるのは入植者に及ぶ毒だ。どんく後継者を入れて、野菜作りはその新しく入植した移住者の喰いつなぎ資金獲得のために栽培させるべきである。それをなければ、いつまでも労力を要する野菜作りをせねばならず、又これを強行せしめれば新しい入植者の資金獲得が困難となり、共倒れの現象を生ずる。

よつて、永年作との転移と同時に新しい入植者をどんく入植せしめなければならぬ。

高村 マナオスの野菜は成績が良い。養鶏もやっているが飼料の肉係であまり奨励出来ない。福岡 カスタラルの佐藤氏は、

止 ミーリヨは自分で作っている。実際は動物性飼料の入手に困るという様だ。

山本 マダヒーでは州政府から二五〇羽の雛を買入れ、一五羽死んだだけで後は成長したので、雄を売って費用を回収してしまつた。飼料は最初だけ、僅かに購入しただけで、現在は自家産の穀物と河魚、貝がら等でやっている。

止 鶏を飼う事は簡単であるが、飼料の点が困る。

山本 マカパーはいろいろと研究してやっている。その点、自信はある。I.C.O.M.I.があるので、需要にも心配はない。

上森 モンテでも少々やり初めたが、入植者の協調性がないうで失敗した。現在は自家用だけだ。入植者の協調性が出来れば有利なものと思ふが。

副合者 永年作はカーゴム、その他カカオ、コーヒー、デムデー、クワラナー等であるとの結論が出た。さて、雑草に追われる熱帯農業の雑草対策は、

内田 線肥作物が必要と思ひれるが、その結果は

高村 原産林を伐つたその年に永年作を植えるべきで、二三年してから植ると、カホエラになつて大変なことである。

アメリカには除草薬がある筈だが、

小谷 24Dは水分の多い所では駄目だし、費用が高くつき過ぎる。クワマは被覆作物もバルセアのため出来ないので、悩みが大きい。

(前) 止 山を伐つたり、すぐ米、次にミーリヨ、それを収穫する前にマンジヨカを植える。マンジヨカ

を獲る頃に永年作がある程度成長する様にして、土地を休ませぬ事だ。これ以外に方法は無いだろう。

内田 ウルグーを植えたため、雑草防止に役立ったという話もあるが。

小谷 ウルグーは成長が良く返る程度雑草を抑える効果はある。しかレウルグーの採算を考へねばならぬ。辻さんの言う手段が良いと思う。

高村 まだ一研究の段階だが、**小型除草機械**を入れるのが現在では大切だ。

司会者 それでは、その問題は各自の研究に期待することにして一応打ち切りたい。明日は、太田移

住振代表は都合で出席できぬとのことであるので、これより太田代表と懇談したいと考へる。

小谷 移住振興の貸付けに、抵当物件を要求することが一番問題である。一番資金を要する入植者にこれを要求しても無理だ。

向井田 アマゾンでは新しい入植者が多くても無理だろう。土地の価値が非常に安価なから。

それでアマゾンに於ては信用貸しを原則とする位か気持ちで貸して貰いたい。

太田 原則として抵当を取ることになっているが、アマゾンの場合は現況ではおろしいと考へる。

現在クワマに無担保で金を貸してある。どうしても担保がなければと苦う訳でもない。

羽根田 担保を取るとは原則である。が、出来るだけ話し合ひで良い方法をとって行きたい。

小谷 クワマは今食べる事だけは出来る。目下は伸びるために機械が必要なのだ。今言われる無担保の融資も一家族当りわずか二コントスだ。この位では大した価値はない。

太田 機械とは何か。

小谷 理想論を振り廻せば限りがない。現在はハンド・トラクターを三台に一台の割りを欲しい。一戸当り約七〇コントス位の融資である。ハンド・トラクターは現在クワマでは絶対必要なものである。

福岡 現物貸与の方法がある筈だが。

羽根田 購入資金を貸し、又現物も貸与する。

小谷 その場合二〇%の頭金を必要とするか。

羽根田 必要とする。これは早く消却して皆さんの手に渡すという精神で、決して酷くない。

小谷 短期融資は時期を失せず貸して貰い度い。

辻村 クワマでそのコントスの融資を受けたので大変助かった。これは今年の米の収穫で返済する

が、未年度用として、直ぐ申し込んだら又貸すと異なるか。

羽根田 本日は商談に未たではないので、時期等は返答できぬ。直ぐに申し書類作成し、提出して貰いたい。移住不振興だ、あいに頼んでも駄目だということなく二層協力願いたい。

今までは申し込んで一月二ヶ月か、つたかも知れないが、今では申し込んで二ヶ月と言う様に短縮改善されている。

山本 マタピロの場合、申し込んで半年になる。せめて貸すか、貸さぬ、かり返事位早くおこなうものか。借入時期を失すると、少なくとも一年も無駄が出来る。

太田 農業融資の時期の重要件は良く分つてゐる。四月以降は必ず早く決裁する様に改め得るつもりである。

向井田 青田貸し、又は生産物担保の貸付けについて意見をもらったまわりたい。

羽根田 本件はアマゾンでは重要だ。目下、本店と協議中である。

高村 マリオスの入植者は移住振興から資金を借りることをあきらめてゐる。移住振興ではアマゾンで事業をする計画ありや。

太田 今回の資金面の制約を受けたりで、方針を変え、新規事業を行うより現入植者の定着、助長、育成に力を入れたい。たゞその事業を興すことにより、たとへ企業的に採算に乘らなくとも移住の振興になるものと判断されるものはやめていく積りだ。現在アマゾンで三の話はあるがまだ研究中であり良く調査したい。

高村 日本の企業家は採算ベースから考えて、利廻りの遅いアマゾンより、利廻りの早い所を希望のは無理はない。しかし移住事業という面から考えて利廻りは少し低くとも、大きな仕事は大きくあるから是非乗り出して貰いたい。

太田 未年度予算の大半を土地の買収費が占めるので、事業を始めることは困難だろう。

比 目下アマゾンで土地を購入する予定があるか。

太田 会社としては土地が安いから買う、高いから買わないということはない。移住者のために良い所なら高々もいくらでも購入したい。この様な考え方がゆくと、多少く、良い土地は少ないものだが

比 従来の方法では移住は困難だ。従来のやり方は日本側は金がかゝらぬだろう。しかし一度退耕者が出ると、植民地側やINICはすぐ悪い点だけが見ず、日本人に好意を持たなくなる。そこでJAMICが土地を買って訓練所のようなものを作り、山川を日本

(其)

からの新移住者に農耕させる。一年か二年して資金を作り、農法を覚またらそこから出て  
他に土地を求めもよし、定着希望者には、土地の一部を分譲とも良い。この権をこゝを  
研究と貰いたい。

太田 各地により事情が異なる。サンパウロのように独自移民を入れて農学校に通学させている  
ところもある。この点、アマソンの良い方法を皆さんで智慧を貸して貰いたい。研究する。

上森 又、生産物担保の話に戻るが、モンテの場合、生産物を倉庫に入れて生産期間中の価  
の安時は寝ておきたい。この寝せける間の融資を頼みたい。四ヶ月もすれば価格は騰  
々来ることは、アマソンでは絶対に間違いないので返済出来ない様な事は絶対にないが、

太田 その問題は目下考慮中である。此のうち御期待に沿えると思う。

小谷 貴社の融資に南北伯に貸付の比率はどうか。

太田 そんな事はない。大体の枠は作るが一応の目安であつて、カザル内には融通自在であ  
る。唯融資を行う立場からすれば土地の価格、交通その他面から見て南伯の方が安心  
感があるのは事実である。それのため南伯の方が融資も土地の購入も多い。しかし、アマソン  
も良い土地があれば購入する。唯、アマソンは時間をかけて、ゆつくりと研究してから進む予  
定であるから永い目で見て貰いたい。

小谷 JAMIに植民地を廻る調査してもらいたいと考えたが、旅費が安いとか事があるが  
何人とかはどうか。

太田 方々へ行く調査とは、幾ら人があつても、旅費がわすも足りない、南伯の森に組合  
が花産といつと組合だけ調べると良いのだが、アマソンも組合の強力の作りをして貰い  
度い。

羽根 植民地を一番よく知っている方は海協連の職員である。是非協力願ひ度いと考ふる。  
司会者 時間も未たので、此で廿一日を終ることにしたい。

九月(十七日)

午前八時三十分開始

司會者 本日は先ずカ一に移住政策に対する現地としての要望を討議したい。最近調査員が来る。これは大いに期待出来ると思つてゐる。

比 本日は私が昨日述べた訓練農場方式をカ一番に行つていくべきだ。

向井田 その訓練所も必要だが、その訓練所を出た人をどこにやるか。その土地の心配もせねばならぬ。實際的には非常にむづかしい要素を携つてゐるので、具体的に研究する必要がある

高村 現入植者の育成強化と、新入植者の導入の二つは分けて考へねばならぬ。従来、日本側ではあまりにも伯回側に頼り過ぎた感がある。伯回側の入植受入条件は結構おくれたが殆んど実行が小ず、中肉に止つた海協連指導員の苦勞は大いへんものであつた。カ一ロツチの測量と出来ぬのだから向題にならぬ。そのためには資金と指導員を増員せねばならぬ。又、入植者が活動したくも種苗が入り出来ぬ。これは大事な事だから現地に種苗園をあげて当方の手で準備する必要がある。道路の修理を行わねばならぬ。これは生産物の出荷に重大な影響を及ぼすので大切な事だ。この点を充分考へて貰ひたい。司會者 先ず既入植者の安定という事だ。

向井田 既入植者の生活を安定向上させることは、非常に大切な事だ。この点を出来れば呼寄せたい。既入植者はどんくゝ入る。既入植者の生活向上は最良のプロパガンダである。

上森 入植時の不満が脱耕の原因とよほ大きい。どうしても日本側で資金を出して完全な状態に受け入れねばならぬ。

高村 モンテでも他の植民地でもそうだが、道路の修理は大きな問題だ。何んか日本側で補助して貰いたい。伯回側は全然あてにならない。

向井田 道路が悪いから、補助金を出して貰うだけでは困る。具体的に冬費やその修理によつて庄屋の利益等を書出して提出してもらいたい。それだければ日本政府に話し掛かない

高村 学校教育の面も充分でない。衛生方面は特に重大だ。海協連に一名専属医を置いてもらいたい。その医師が各地を巡回してもらいたい。

向井田 結構な案だが、それは日本人の医師に限定を語つてゐると考へる。日本からの医師は伯回で商業出来ない事は承知の通りだ。そのため神田ドクターを調査と言つて名目で巡回し

ていたに過ぎないのである。

**上林** 神田ドクターに良く伺う。各種民地に救急用薬品を備えて貰いたい。その後は水を廻転させて補充して行くが。

**向井田** 救急用薬品の量にもよるが、出資しあつても戸当りの額は大したものになりぬだろう。入植早々の植民地なりには知らず、入植後年月も経ている植民地では自分達で備えるべきだろう。せよ世話をすることは移住者を甘やかすことになる。

**神田** どんな薬があるか、どんな手当てをするかは報告書を出してあるから、海協連で近日中にパンフレットとして配布する筈である。

**小倉** クワマでは共同で救済箱を作っている。それを二割程度高く販売して薬品の種類や量を増しつゝある。血以内は、種類が揃へば市価又はそれ以下にする予定である。

**向井田** 絶対必要で高価な薬品は何となく補助を考えたから、神田ドクターとも話し合つて解決する。大体今迄の入植者は、植民地内での纏りが非常に悪い。利害がともなうことになり、知らず、薬品の事とか、教育の事では是非纏って貰いたい。

**神田** 単に衛生面だけでなく、食事についても、非常に各種民地とも不十分だ。協同飼育、協同屠殺も考へて、動物蛋白質を取りぬと大変な事になる。鶏でも産むことはかり考へて、自分達が食へて栄養を儲けることを考へていない。

**南村** 現在いざいざも現職員数は不足で仕事がおろそかになり、さしずめ移動職員を二、三名おいて、出張せめて応援するようにして貰いたい。

**向井田** 未年度の予算では人員も三名は増員出来たし、旅費も増額される予定だ。農場にも若い人を呼び寄せて指導員の養成も出来ると思つて、是非実行したい。

**橋本** 人向の問題については考へている。日本から連れて来ても一年や二年では指導員として使えない。当館からもIANNに三名程度の学者を送つて、研究させる様に要求し、IANN所長も大いに賛成しているから実現出来る。この人々力もかりぬえたらう。外務省実習生も上手に使いたいと思つている。人向を増やすことも予算面に制限があるので、この等の人向の利用を考へる。

**高村** サンパウロ方面で農林省実習生と話したが、水住する気持がわるいと感じた。水住性のあるものが欲しい。JAMICが南伯のあちこちに土地を譲うのは、土地の献上

りを待たずいる様な感じを受けた。東洋に移住移民を考えているかどうか。非常に消極的だ  
横岡 既入植者に対しては出来るだけ早く自主独立の出来るやうに指導を行くのが大切だ。日  
本の貧弱な体制で、日本を出るから死ぬまでの援助は出来ぬ。それには先ず組合の強化  
を計るべきならばならぬ。

小倉 クワマの組合は対外的に非常に得である。

横岡 日本人同士で信頼し合せて進まざるに耳買さんの指導を阻ぎたい。

上森 組合については各地共真剣に考えている。しかし、もっと新しい入植者を入れて組合員を増や  
せば経済的な基礎が出来ぬ。新しい人夫に導入したい。

高村 移住移民はもと積極的行動を取らねば駄目だ。慎重論も程度による。

司倉者 それでは新入植候補地について、

横岡 古川氏が来、又調査田も来る。立地条件から云えばベリンに近い所程良い、しかし地  
質の点がある。B.R.十四号国道沿線も考えている。又マラエオン州のメアリン附近も考  
えている。

司倉者 あらちも、こちらも調べることは無駄だと思える。調査田に目的地を示して、重点的に  
調査してもらうが、総領事とも良く相談して決めたい。

比 メアリンは北パラナに次ぐ良質の土地である。

司倉者 イリヤ地方も堤防を作れば充分適地となる。これは伯国に日本農業の優秀性を示すの  
にも良い。このイリア地方は極めて有望だと思える。

比 トカンチンと村直、マラバト村直にも良い土地が沢山あるから候補地として調査すべきであらう

司倉者 機械化の点について意見をききたい。

向井 農場のトラクター使用について説明願いたい。

上野 ニュートントラクターは未だ到着早々であり、雨期でもあるのでその効果については断定出来る  
段階ではない。しかし伐採四年後のドムスからリヨアカホエイラを試験的に抜根整地して見  
たが、耕地を新しく代つて作るより旧耕地をトラクターで耕耘した方が有利であるという結  
果が出たものである。特に耕地拡張により耕地が狭がれば狭がる程カホエイラ耕地を利用  
する効果は大きくなって来る。

(注) 耳買 油代、償却費、修理費を考ると、トラクターは100町歩に1台位ないと採算が採れない

肥料をいれようとしてトラクターで除草が出来ない率もある。トメアエーもトラクターが運搬車の  
枠になすてしまっている。もったいない話だ。今少し研究の要がある。

向井田 機械化才二歩は、

小谷 クワマはハンド・トラクターだ。

高村 それは介るが現況としてはハンド・トラクターの協同購入は管理問題がからみ、なかく協  
同購入出来ないので困る。

向井田 ハンド・トラクターは農産会社に頼るほか現在は途がないのではないか。

橋岡 結局移住振興にヤン／＼と入るさく、喧ましく訴えるより他に方法がないだろう。

司会者 この場合、現物貸与がよいか、融資がよいか。

谷 どうらうでも良い。要は早く入手したいからだ。現在大塚族で三戸のハンド・トラクターを申請  
している。

小谷 クワマは水の向題があるので、バーチカル・ポンプを必要とする。

向井田 しかし、それは直ぐ出来るものだし、安いものだから各自の力で購入すべきである。大いそ

難し向題ではないであらう。

山本 マダゴンはハンド・トラクターを貸与してもらいたいと考えている。

相沢 既設植民地はもう共同施設の貸与を受けるべき時期は過ぎたと考える。自らの力で

やま行くように考えて貰いたい。

神田 機械化向題に先陣して、農人救急用として不便な地には自動車も貸与させたいが。

向井田 それは理想だが運営出来るかどうか向題となってくる。

相沢 それはおそらくシイアーノ植民地を対象として、神田トラクターは発言せられたと思うが、今

後入植者が増加される見込みだからなんとか考えらるだろう。

谷 生産物の運搬だけに限定して貸与すると運営出来ないが、それ以外に使用ともよいと

すれば収入の直は沢山わり維持運営は困難でない。

平賀 機械化の才要は、生産に付いたものを入れるべきで、最初から大きなものを入れるのは一考を

要するに考えている。

司会者 次いで組合の育成強化について論じたい。

(三) 上森 才二は資金だ。出荷してもその入金を取取るまでに日付がかかる。この間の資金が欲しい



心海、はる、紙地

結局は倉庫入りの生産物を対象として振興会社が短期融資をとりこむのは良いが。

高村 マナオスでは倉庫がめいば非常に組合が強化される。又、モンテ、ボア、グイスタ、ホルト、ウエリヨの集荷所としても使用出来る。

向井 其の意味でベレインにも倉庫が欲しい。

高村 この称を点か、切角現地に支店が出来たのだから、現地の事情に即して振興会社がどんな事業をやってもいいものだ。勿論、運送機内を併せもって来れば尚よい。

其貴 船は法律上JAMICが持つことは困難だろう。

相沢 太田代表の話では、アマメンに事業進出の気は無さそうに感じたが。

上森 モンテの組合の条足は倉庫から始まっている。倉庫があつたから組合がどうやら軌道にのつた。運輸問題は別として倉庫をマナオス、ベレインに設けることは入植者に大きな利益を与えることは間違いないことでは是非実現したい。

小谷 今日段階では、組合の育成強化は振興会社の融資の影響を受けることが多い。海協連としてはやるだけやそいだが、経済問題になると、どうにもならぬことが多い。

相沢 倉庫はどこかに貸したりどうか。振興会社をめぐりても何時になるか分らぬ。措料を払っても採算が採れる筈だが。

向井 さしずめの問題は、その管理を誰がやるか。又その管理費をどうやって出すかが問題矣となるから、研究せねばならない。

司会者 先程、相沢氏のお話では既設植民地には、もう共同施設物を食ふする段階ではないとの事であつたが、それに対して何にか意見があるか。

小谷 伯国側があつてならぬことはすでに述べ盡している。各植民地に小さいながら種苗園が欲しい。

司会者 各地に設備することは良い策だが、誰が管理するかという問題がある。

相沢 各地の篤農家に相当の報酬を支拂う、依頼したらどうか。種苗園ならば大して大きなものにはならぬ筈だから。

上森 駐在員か労働者を使用しやることは、事実上非常に困難であるので稼働力の多い篤農家に依頼したい。

(三) 司会者 植民地設定にならば最初に必要なものは種苗である。

山本 現在としては、モンテ種苗農場も何処に輸送しても活着を得る強健な苗、輸送方法を研究して欲しい。又、苗の必要なのは入植時一年目が最も大事なのであり、二年目からは各自でいろいろと考へながら作っていく。

相沢 そうすれば、新入植地に必し種苗園がいることになるが、入植決定から入植までに種苗の育成が出来るかが問題となつて来る。

町田 モンテにある現在のものを重点的に増したらどうか。

向井田 向種は苗の輸送の点にある。今の交通機関を利用して輸送する研究を上野さんにお願ひしたい。

相沢 現在としてはマオオに二ヶ所植設すれば良かりではないか。

向井田 そうなれば農場費の一部をさくさくすることも出来ない相談ではないであろう。

司会者 モンテの農場の強化策について意見をききたい。

上野 現在金費の点もあるが、人員不足で全く弱まっている。日本から青年を呼寄せ、教育しながら運営する方法を考へて貰いたい。

司会者 来た青年は次山いるが、問題はその主費だ。

向井田 人数にもよるが、出来ぬことはないだろう。

上野 五人位は是非欲しい。

町田 特にどんな技術者が欲しいか。

上野 熱帯農業研究者だ。

平賀 特に作物試作研究家が良いだろう。

上森 差し当り、現地にあるものを一般化するこゝとをやつて貰いたい。米、ミールヨの採に輸送費に喰ひれしものより、もつとむにか良いものを採らしてもらいたい。

十三日午後

平賀氏植民地巡回報告(大要)

(三)  
人口密度が疎である地方に入居、食糧増産に努めることには限度がある。そこで少量を輸送が便利で、価格のあるものを栽培せねばならぬ。目下はロメンタが良いと考へる。そこで米等作物は何が良いかと考へることになるが、また干ばりの状態である。いろいろと試作と見なければならぬ



農者 牛は乾燥に強い。

上野 今年の乾燥で、ワルセワ草も枯れた、火が入り、毒草を喰べたりして相半に被害を受けたが乾燥には強いと言え。

平賀 マタゴトはゴムに全部を託すというが、採炭開始までの収入源をもうと研究の要がある。かゝの接木をいかにしりかたが、他に頼りず自分か芽接ぎをせねばならぬ、接木をせしりは一五元、接木をしたものは三の四五元採炭があることを考へべきである。

高村 マタゴトはゴムに対し銀行融資があるか

山本 ある。

高村 それすると芽接ぎ費はその中に含まれるのか。

山本 マタゴトは、州の農務局から芽接ぎをやりかゝる。政府に対する依頼心が強くマタゴトではこれが発展を阻害している点が多い。だん／＼矯正していくつもりをやつてゐる。

此村 公的では芽接ぎは行わぬ、折長の方針である。接ぎ穂がよいせいでと考へる。しかし若肉に傷をうけ、その液り虫具合で四種に區別し、良いものを成育せしめる採にする方法を取らる。

平賀 それは悪い方法ではなげが、実際問題として芽接ぎをしなければ、多くの採炭は先ず見えない。マタゴトは土地が州政府のものであるので、永年作物を植えることを真面目に考へていない。野菜だけの収入で生活せよという点もある。たゞうけ水でも、他人の土地だからと、水く住む以上は果樹等をどん／＼植えておけば損はない筈だ。詳細は報告書を出した力で、これをプリントして配布するの事であるを御覧願いたい。

神田博士植民地巡回報告 (大要)

調査の点は時間的に余裕がなく、診療が主となつたのは残念であるが、診療の結果からいろいろと報告したい。

入植者は気候が変化したが、熱帯地に於ても尚日本の食事を固守し、栄養不足を生じている。又入植早々であるので、農耕を急ぐため暑さを考慮しなかりで疲労が激しく、従つて肉體とあせりから来る精神的な面を体力を消耗し、入植半年目位がいろいろと発症が多く、これが一応慢性化し、今も残る症候は有様である。

その水を全治せず、残っているのは、マツリア、アミール赤痢等がある。その他皮膚病、肺炎  
とラコマが割合に多い。悪性熱帯疾患はここにも全然ない。寄生虫も多し採である。

マツリアとアミール島の慢性は肝臓を犯すから特に注意して治療せねばならない。植民地  
で水に気が付くのは栄養の悪い点で、その原因は

(一) 日本と同じく、米野菜だけが攝るせい。

(二) そのため米を多重に攝るのみで胃が悪くなっている。(胃拡張、胃潰瘍)

この二つであるから栄養上の指導を要する。皮膚病が多いのは日本人は風呂好きである  
にもかかわらず、トマ、バニョ後又、汗をかいた後服を直ぐ着る。これが皮膚病を大々増  
図を与えている。住居問題は、最初から衛生的で理想的な家を作ることには無理だから  
次の点を考慮に入れて建てねばならぬ。

(一) パリマは古くは毒虫の巢となり、シマガハネの原因となることがあるから、木床得  
るだけ早く瓦に取替ねばならぬ。

(二) 天井を張る採りねばならぬ。

(三) 雨戸を付け、害虫が家内に入らぬ採に、木床は金網を掛ける必要がある。

(四) 床に直接寝具を敷くことは非常に悪い。ハンモックか出木ればカーマにすべきである。

(五) 薬剤散布を年二回必ず高所に振りまわらねばならぬ。又、壁にD.D.Tを混せて塗  
ることは非常に効果がある。

(六) 通風乾燥を良くし、直射日光が入らぬ採にすべきである。

(七) 床下に火や鶏がいらぬのは不潔だから考へねばならぬ。

(八) 特に便所は密閉して蠅のわかれ採にせよ。

建築も結構だが、先ず以上の点に留意し資金を使用すべきである。水は必ずフィルト  
で濾過して使用せねばならぬ。海協連としては、栄養の点を考へてパンフレット等を作  
り衛生講習会等を行わねばならぬ。労農状態が良く、開拓熱の多い植民地程病  
人が少ない。植民地別にこれを見ると、

(一) タイアーン 三年前に行つた時は熱性疾患がめつたが、現在は無くなつている。これ  
は栄養が良くなつたからである。食事が改善されたから熱性疾患は無くなつたとの事  
ある。牛乳に熱せられていたから、もっと自家用野菜を作って栄養が片寄らぬ採

に攝すべきである。又、トラコトマが幼児に多いから注意を要する。

(三) ベラウイスマタ マラリアは全然ない。皮膚病が多い。共同で牛や豚を殺し、栄養を考ふるべきである。又、共同救急薬を考ふるべきである。

(四) トレーゼ、デ、セ、テン、ハロ 慢性マリア患者が多く治療方法に欠陥がある。熱が下がると治つたと考へてしうりは間違いだ。マリアは熱が下をも徹底して治療すべきである。又、アイバーから来た肝臓病がある。住居もひどい。これはマラリアでもアサイザールでも同じだが、クワマリ杯に二階建てにした方がよい。又、カボエイラの処置と、排水の便を考へねばならぬ。

(五) カワマ 米が沢山穫れるため慢性胃疾患者が多い。栄養は各種民地中一番悪い杯だ。特に土力が目下野菜生産にあるので、体力を要するのだが、栄養の点をもち心掛けるべきである。

(六) マクピロ マラリアが多い。こも他と同様栄養状態が悪い。特にカイタミシノ欠食が多い。もう現地伯人の生活を習う。現地食を研究すべきである。

(七) フンジンシマ 非常にハエが多い。もう便所設備を考へて貰いたい。又、労働が激しいのだが肉食を攝り、同時に脂肪分をも攝らねばならぬ。

(八) モンテアレグレ 他に比較して健康状態はよく、マラリア、アイバ等は少ない。モンテに限らず入植前に結核に犯された者が多いが、これは日本でレントゲンの間接撮影をして痕跡させる様に気を付けねばならぬ。營養上瘴気に犯されることは致命的である。現在の慢性マリア、アイバ等を完全に治療し、住宅をもっと清潔にする必要がある。

金を掛けなくても、頭を働かせれば、この問題はある程度解決出来る。栄養攝取問題は豚・鶏を自家用として、もつと飼うことは勿論、真剣に考へねばならぬ。尚、マラリアの予防薬は、新しい薬が出ていり、そり心配のない人も用いることが望ましい。名前はガラフィンがよく、又レゾシネも出ている。

司會者 いろいろと熱心な討議や報告が行われて得るところが非常に多かつた事を、大変うれしく思う。今後、更によりよいプラン建設のために、意見をドシク出して、お互いに研究し合うようにしたいと希望する。

(五)

(六)

橋本 移住と企業との問題は、私り前々からの考案で、今日もその問題が論ぜられたが、  
洵に心強い気がした。既移住者が成長しつつあることは、指導員諸氏の努力賜  
と感謝にたえない。私も役人というワケから脱して仕事をしたいと考えている。又平賀  
神田両氏の巡回は非常に好評と収めたいので、来年もこれを実行する様努力し  
たい。海協連取員が、家族的な気持で、熱心に会が進行された事は非常に楽しく感  
じられた。私も及ばずながら政府や、移住関係者との緊密なる連絡をとり、アマン  
の特殊性を強調したい。又、伯田官憲との折衝にも従来以上に意を用い努力し  
行きたい。

司会者 これで今回指導員連絡協議会を終了することにいたします。

以上

